

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年1月28日(2010.1.28)

【公開番号】特開2008-208131(P2008-208131A)

【公開日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【年通号数】公開・登録公報2008-036

【出願番号】特願2008-70484(P2008-70484)

【国際特許分類】

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 0 7 K 16/28 (2006.01)

C 0 7 K 14/21 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 16/46 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 P 21/08 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 19/00 Z N A

C 0 7 K 16/28

C 0 7 K 14/21

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 K 16/46

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 A

C 1 2 P 21/08

A 6 1 K 39/395 E

A 6 1 K 39/395 T

【手続補正書】

【提出日】平成21年12月8日(2009.12.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アミノ酸44位でシステインを含む V_H およびアミノ酸100位でシステインを含む V_L を有する組換え抗CD22抗体にペプチド結合した治療剤を含有する組換え免疫複合体であって、ここで、該抗CD22抗体は、配列番号 2 に対して少なくとも 80% の同一性を有する可変重

(V_H)鎖および配列番号4に対して少なくとも80%の同一性を有する可変軽(V_L)鎖を含むRFB4ジスルフィド安定化Fv($d s F v$)である、組換え免疫複合体。

【請求項2】

前記抗体が、配列番号2に対して少なくとも90%の同一性を有する可変重(V_H)鎖、および配列番号4に対して少なくとも90%の同一性を有する可変軽(V_L)鎖を含む、請求項1に記載の組換え免疫複合体。

【請求項3】

前記治療剤が毒素である、請求項1または2に記載の組換え免疫複合体。

【請求項4】

前記毒素が、Pseudomonas 外毒素(PE)、またはその細胞傷害性フラグメントである、請求項3に記載の組換え免疫複合体。

【請求項5】

前記細胞傷害性フラグメントがPE38である、請求項4に記載の組換え免疫複合体。

【請求項6】

前記可変重(V_H)鎖が、前記毒素のアミノ末端に結合したペプチドである、請求項3～5いずれか一項に記載の組換え免疫複合体。

【請求項7】

請求項1～6いずれか一項に記載の組換え免疫複合体をコードする、発現カセット。

【請求項8】

請求項7に記載の発現カセットを含む、宿主細胞。

【請求項9】

悪性B細胞の増殖を阻害するための、請求項1～6いずれか一項に記載の有効量の組換え免疫複合体を含む組成物であって、ここで、該組成物は、該悪性B細胞との接触に適切である、組成物。

【請求項10】

前記悪性B細胞が、インビボで接触される、請求項9に記載の組成物。

【請求項11】

前記悪性B細胞が、ヒトB細胞である、請求項9または10に記載の組成物。

【請求項12】

請求項11に記載の組成物であって、ここで、前記悪性B細胞が、慢性リンパ性白血病細胞である、組成物。

【請求項13】

請求項11に記載の組成物であって、ここで、前記悪性B細胞が、毛様細胞白血病細胞である、組成物。

【請求項14】

請求項11に記載の組成物であって、ここで、前記悪性B細胞が、前リンパ球性白血病細胞である、組成物。

【請求項15】

請求項11に記載の組成物であって、ここで、前記悪性B細胞が、B細胞リンパ腫細胞である、組成物。